

TGM

ガス入り複層に好適

濃度測定器は持ち運び容易

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)は、ドイツ・DGT社の複層ガラス用ガス充填(じゅうてん)装置、ガス濃度測定器を販売している。DGT社は充填速度が異なる複数のガス充填装置をラインアップし、手動によるガス充填の幅広いニーズに対応する。ガス濃度測定器は持ち運びが容易な小型ハンディタイプで、酸素濃度の測定によって複層ガラス内のガス濃度を特定する。DGT社は世界で1900件を超えるガス充填装置の導入実績があり、複層ガラスのガス充填に関する深い知見を基にしたソリューション提案が可能。

DGT社のガス充填装置は、充填速度が異なる複数のラインアップがある。「ピコスター」は毎分8リットの充填速度(アル

ゴンガス充填時)で、独立した出力ポートが1ポート、2ポート、4ポートのモデルがある。充填速度は低速だが、センサ

1制御によって信頼性が高い充填が可能。中小規模生産の複層ガラス製造業者に適したモデル。「スマートスター」は毎分30リットの充填速度(同)で、1ポート、2ポート出力が可能。センシング機能が強化されたモデルで、吸引ポンプによって高速での充填が可能となっている。

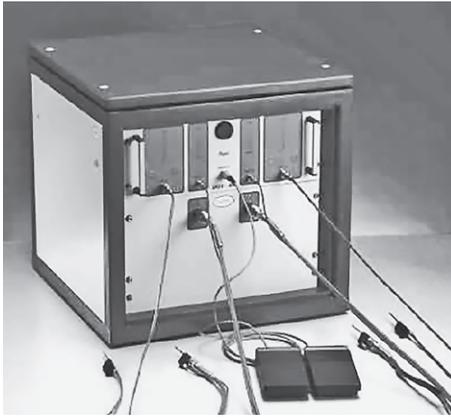
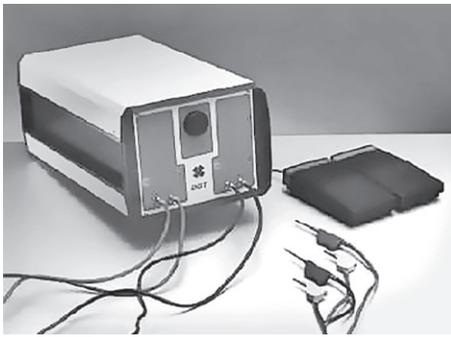
世界最速水準の充填速度の「スピードスター」は毎分70リット、100リット、150リットの充填速度(同)のモデルがあり、それぞれ1ポート、2ポート出力が可能。複層ガラス製造ラインでガスプレスの代替手段として、手動でガスを充填するといった使用方法が可能。いずれのラインアップもアルゴンガスの他、クリプトン、キセノンといった希ガスや六フッ化硫黄(SF6)ガスの充填にも対応している。センシングによってガス損失を最小限に抑える制御を行っており、高価なガスを低損失で充填できる。自己校正が可能で、キャリブレーションに試験用ガスが不要なので維持コストを軽減できる。オプションでフットペダル操作も可能。

ガス濃度測定器として「センソリン」をラインアップ。「センソリン」は0・1%の分解能を持つハンディタイプの酸素濃度測定器で、酸素濃度を測定することで複層ガラス内部のガス濃度を特定する。非接触型の測定器に比べ高い精度で測定が可能で、測定時間は約6秒。機器の重量は500g以下で、電池駆動のため簡単に持ち運ぶことができる。

DGT社は、1970年代からガス充填技術を開発・改良してきた経験豊富な技術者によって構成され、世界各国の複層ガラス製造業者に対してガス充填装置の販売とアドバイスをしている。同社は複層ガラス用ガス充填装置以外にも、複層ガラス製造ライン、複層ガラス製造用の付帯設備(オートベンダー、ブチルシール塗布装置など)、複層ガラス用副資材(スペーサー、シール材など)といった幅広い製品を取り扱っており、複層ガラス製造に関するソリューションをワンストップで提供している。

DGT社は、接触式の

高精度でガス濃度測定



DGT社のガス充填装置 左は上から「ピコスター」「スマートスター」、右は「スピードスター」



ガス濃度測定器「センソリン」